

川勝祥弘「楽しいトークとミニ個展」

去る12月5日（木）、北畠会館にて川勝祥弘君の「楽しいトークとミニ個展」が開催されました。この会は、川勝君が描きためてきた「旅して楽しむてくくのりもの日記」をもとに、親しい仲間である伊藤治正君、江見眞君、北村（近藤）芳子さん、中野（北村）幸子さん、そして前田（北野）淑江が企画、開催したものです。

彼は住高ではワングル部のリーダーとして幾多の山登りや旅を楽しみ、美大ではデザインを専攻し、卒業後は日立製作所でドイツを中心とした長期の海外勤務を経験し、その折々の心象風景を描き続けてきました。その数は300枚を越え、私たちは出会うたびにその絵を見せてもらい、自分たちが体験した場所は懐かしみ、見たことのない風景は想像を膨らませて楽しませてもらってきました。そのやさしい色づかいと温かみのあるタッチに心慰められてきました。

そのうち誰からともなく、「住高の友だちにもこれらの絵を見てもらえたらね」との声が上がり、そして即座に動き出していました。

数ある作品の中から選んだ絵を額に入れる作業はもちろんのこと、スライドや資料の作成、さらに趣味で制作している廃材を利用したのサンタクロースや雛人形などの作り足を川勝君は急ピッチで進め、高校時代からの名世話役北村芳子さんが案内状の作成や同級生への連絡に奔走してくれました。伊藤君は当日の司会、江見君は懇親会の手配、中野さんは会計、前田はその他諸々、そこにピンチヒッターの弓山アヤさんも加わって、役割分担は順調に進み、準備期間もおおいに盛り上がりました。

12月5日は18期会の直後、さて参加者は？と心配しましたが、25名もの人たちが駆けつけてくださいました。北畠会館の広い一階ホールには、ヨーロッパや日本の風景が両サイドにずらりと並べられ、入り口のコーナーではかわいいサンタクロースや雛人形が参加者を出迎えました。伊藤君の司会で進められたトーク会では、川勝君はスライドを駆使して絵の説明や体験談を語り、参加者は自身の体験とも重ね合わせてそれらを楽しみました。

川勝君はそれらの絵を毎年カレンダーにして親しい人たちに送ってきたのですが、今回はお土産としてカレンダーを参加者全員にくださいました。大好評のサンタクロースや雛人形もおまけに付きました。

場所を変えての懇親会にもほとんどの人たちが参加し、ミニ同窓会を楽しみました。小学校、中学校と川勝君と一緒にいた人たちも多く、子どもの頃に帰っての会話が弾みました。関東から駆けつけてくれた人もいました。大学時代演劇部にいた薮根（野原）道子さんは当時川勝君に描いてもらったポスターを持参、その演劇の公演日がなんと同じ12月5日（木）という奇跡もありました。18期以外の人たちも参加され、私たちに溶け込んで楽しんでくださいました。川勝君の人徳に浸らせてもらった一日でした。

（文責） 前田淑江